北杜市

HPVワクチン予防接種を受ける前に

1　病気の説明

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100以上の種類があります。そのうち少なくとも15種類が「高リスク型HPV」と呼ばれ、子宮頸がんをはじめとする病気に関わっていると考えられています。

●高リスク型HPV

粘膜に感染するHPVのうち少なくとも15種類が、子宮頸がんの患者から検出され、「高リスク型HPV」と呼ばれています。

高リスク型HPVは性行為によって感染しますが、子宮頸がん以外に、中咽頭がん、肛門がん、膣がん、外陰がん、陰茎がん等にも関わっていると考えられています。

●子宮頸がん

女性の子宮頸部にできるがんのことです。子宮は、胎児を育てる器官で、全体に西洋梨のような形をしています。また、子宮頸部は、膣へと細長く付き出た子宮の入口部分（膣の方から見た場合には、奥の突き当たり部分になります。）のことを言います。

HPVウイルスは、子宮頸がんの患者の90%以上で見つかることが知られています。また、HPVに長期に渡って感染することで、がんになると考えられています。なお、HPVは一般に性行為を介して感染することが知られています。

2　ワクチンの説明

HPVワクチンを接種することで、ヒトパピローマウイルスの感染を予防することができます。HPVワクチンは、子宮頸がん全体の50～70%の原因とされる2種類のヒトパピローマウイルス（16型と18型）などに持続感染等の予防効果をもつワクチンです。これまで、16型と18型の感染やがんになる手前の異常（異形成）を90%以上予防したと報告されています。

●副反応

〇発熱や接種した部位の痛みや腫れ、注射による痛み、恐怖、興奮などをきっかけとした失神等がみられます。

〇広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動等を中心とする「多様な症状」が起きたことが、副反応疑い報告により報告されています。（下記参照）

●機能性身体症状について

①知覚に関する症状（頭や腰、関節等の痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に関する過敏等）
②運動に関する症状（脱力、歩行困難、不随意運動等）
③自律神経等に関する症状（倦怠感、めまい、睡眠障害、月経異常等）
④認知機能に関する症状（記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下等）

など様々な症状が報告されています。この症状は、何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査を受けた結果、その身体症状に合致する異常所見が見つからない「機能性身体症状」であることが考えられています。

●接種の標準的な時期

〇15歳の誕生日前日までに接種を完了させる方　　合計2回接種する

2回接種します。1回目と2回目の間は5ヶ月以上の間隔をあけて接種します。

1回目	5か月以上あける	2回目

〇15歳の誕生日当日以降に接種する方　　合計3回接種する

3回接種します。1回目と2回目の間は2ヶ月以上の間隔をあけて、2回目から3回目の間は4ヶ月以上の間隔をあけて接種します。

1回目	2か月以上あける	2回目	4ヶ月以上あける	3回目